

温泉施設の存続を前提とした 前向きで未来志向の計画への見直しの嘆願書

ゴーゴー！羽茂温泉プロジェクト実行委員会 一同

■ はじめに

現在、佐渡市において、羽茂温泉をはじめとした温泉施設の廃止を含む計画が検討されております。

温泉施設が廃止された場合、「多様な世代が集まる貴重な地域の拠点」を失うだけでなく、「外国人旅行者」や「移住希望者」等の「島外の人を呼び寄せうる貴重なコンテンツ」を失うこととなります。

私たちは、燃料代の負担を主とした温泉施設の赤字が重くのしかかっていることは理解しています。

一方で、温泉施設の廃止をした場合、赤字の削減額以上に、温泉施設を失うことによる「温泉施設が果たしてきた地域社会の社会資本の喪失」、「温泉施設が持つ外国人観光客誘致の潜在的資源価値の喪失」及び「温泉施設が持つ移住希望者誘致の潜在的資源価値の喪失」による損失が大きいと考えます。

そのため、本年 7 月から 9 月までゴーゴー！羽茂温泉プロジェクト実行委員会が羽茂地域で実施した「2017 年 4 月以降の羽茂温泉存続に向けたアンケート」の結果（別紙）を添えて、「温泉施設の廃止を含む計画」の「温泉施設の存続を前提とした、前向きで未来志向の計画」への見直しを嘆願いたします。

■ 廃止とすべきでない理由：「廃止によって発生する 3 つの喪失」

① 多様な世代が集まる貴重な地域の拠点としての地域社会の社会資本の喪失

少子化・高齢化がますます進む中で、厚生労働省を中心に「可能な限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」ための「地域包括ケアシステム」に構築が求められています。そのためには、「年齢や障害の有無にかかわらず、誰もが気軽に集い、必要なサービスを受けることができる地域福祉の拠点」が必要とされています。

佐渡市においても、「佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略」において、「親子の触れ合いや育児相談機能を持つ子育て拠点施設を整備」「若者の孤立化を防ぐ仕組みづくりや子どもから高齢者まで地域で総合的に支える仕組みづくり」が謳われています。

一方で、地域には人が集まる拠点として「図書館」「老人クラブ」「子育て支援センター」等がありますが、「多様な世代が集まる拠点」は非常に限られています。

温泉施設は、「2017 年 4 月以降の羽茂温泉存続に向けたアンケート」結果（別紙）からもわかる通り、数少ない「多様な世代が集まる拠点」として非常に貴重なものであり、また一度廃止してしまえば一からそうした拠点を構築するのは困難です。

今求められているのは、「廃止」ではなく、既に多様な世代が集まる貴重な拠点として出来上がっている温泉施設を中心に、多様な地域活動を集約していくことではないでしょうか。

《以下、アンケートに寄せられた意見から抜粋》※添付資料に再掲

- ・「ばあちゃんちに行くともみんなで行くのを楽しみにしています。なくさないでください。金井はなくなってしまっています。」(金井、20歳以下男性)
- ・「交流の場として残ってほしいです。」(羽茂、20代)
- ・「小さい頃から通っていて、大人になってからさらに良さを感じるようになった。温泉としてあるだけでなく色々な企画も楽しくていつも気にしています。金井温泉のようにだけはならないでほしい。金井は本当にさみしくなりました。」(金井、30代男性)
- ・「仕事の帰り、仲間での話し等、深く親しく話しが出来たりする。ここまで温かい温泉があるのに温泉があるのに、なくなるのは、しのびない。交流や、地域、仕事の話など、ゆったりと出来るのもいい。」(小木、3～40代)
- ・「年寄りの人が話をする場所が他に無い。冬や暇な時間があると、我家のお婆さんはとても喜んで出掛けます。なくなると楽しみ無いです。」(羽茂、50代女性)
- ・「コミュニケーションの場になっています。年代の違う人達が楽しくしています。市長さんは、一度入ってみてほしいです。こわすばかりでは、だめだと思います。こわせばもう作ることはできません。いこいの場です。」(羽茂、60代)
- ・「温泉が好き。健康の為にも(あってほしい)。CCRC(継続的なケアを提供する高齢者向けコミュニティ)の拠点として、市を巻き込んでみたらどうか？」(羽茂、60代)
- ・「利用者の健康管理。アルカリ温泉は最高。高齢者交流の場は絶対必要。」(羽茂、70代男性)
- ・「家族が居ても会話が少ない。温泉に行くと顔見知り居て、おしゃべりが出来る。温泉に入ることの良さと、人とのコミュニケーションの場として大事です。」(羽茂、80代以上女性)
- ・「昔から仲の良い人と集まれる場所が近くにあるのは嬉しい。腰の痛みが和らぐ気がする。」(80代以上女性)

② 温泉施設が持つ外国人観光客誘致の潜在的資源価値の喪失

佐渡の観光客数は年々減り続けている中で、唯一増加傾向にあるのは外国人観光客です。また、日本政府は、2020年に訪日外国人観光客数の目標を2000万人としており、2016年からの倍増を目指しています。

そのため、佐渡の主要産業の1つである観光を維持・拡大するには、外国人観光客の獲得なしには語れません。

そうした中、観光庁によれば、「温泉」は訪日外国人の訪日動機の4位であり、またトップ4の中では唯一「今回したこと」を「次回したいこと」を上回っています。また、調査の順位から言えば、「温泉」は、「海産物含む日本食」「日本酒」以外の「伝統文化」「海水浴場」「自然・景観」よりも外国人環境客を呼べるであろう資源です。(観光庁「訪日外国人の消費動向」より)

これらのことから、外国人観光客の新規獲得・リピーター化のための最も重要な観光資源であるといえます。

今求められているのは、「廃止」ではなく、佐渡の最重要課題の一つである外国人観光客誘致のため、誘致策の中心に「日本食・日本酒」「豊かな自然環境」「伝統文化」と共に「良質な温泉」を加え、温泉施設を佐渡の観光政策の重要拠点として位置づけることではないでしょうか。

中心に、多様な地域活動を集約していくことではないでしょうか。

③ 「温泉施設が持つ移住希望者誘致の潜在的資源価値の喪失」

佐渡市は現在、「移住・定住支援」として空き家の活用を進めています。羽茂地区にも多くのIターン者がいますが、それらの多くが羽茂温泉を利用しています。

そうした状況下、佐渡への移住とその定着において温泉施設が重要な役割を果たしていることを見逃さないで欲しいと考えています。その重要な役割とは「移住先の決定要因としての温泉施設の役割」と「空き家の不十分な入浴設備の代替手段としての温泉施設の役割」です。

温泉施設は、アンケート結果からもわかる通り、移住者が移住先を決定するうえでの重要な決定要因の1つとなりえます。気軽に入れる温泉施設が佐渡島内に沢山あるということを知りていくことで、今後も継続的に移住者を獲得していくことに繋がるのではないのでしょうか。

・「4月に横浜から羽茂に移住しました。羽茂温泉があることが移住の条件でした。無かったら移住は考えませんでした。今後移住者を増やすことを考えた場合必須と考えています。温泉があることを私は個人ツールで人に伝えて移住者を増やすことを今後も続けていきます。(羽茂、40代男性、アンケートでの意見より)」

移住し、空き家を借りた人の中には、設備が古く入浴設備が快適な生活を継続していく中で不十分でなかったという場合が少なくありません。そうした場合、その方々のうちの多くは、その代替手段として温泉施設を利用しています。

もし温泉施設がなくなった場合、そうした方々が日常生活を快適に営んでいくことが非常に困難となります。それは、移住者の定住化の大きな阻害要因となってしまいます。

今求められているのは、「廃止」ではなく、移住者の獲得・定着の手段として温泉施設を位置づけることではないのでしょうか。そうすることにより、移住希望者への強いアピールポイントができるとともに、入浴設備が不十分な空き家でも、市として費用を最小限に抑えて移住者に提供することが可能となると考えます。

■ 温泉施設存続のための提案

① ふるさと納税への温泉施設運営応援コースの新設

今回のアンケート結果からもわかる通り、温泉施設は、島民だけでなく、島外からの帰省者や旅行者にとっての憩いの場となっていることがわかります。

そうした状況を踏まえ、そうした方々から温泉施設の存続費用を応援していただく手段を作っていただけないでしょうか。

《以下、アンケートに寄せられた意見から抜粋》※添付資料に再掲

- ・「日本人にとってお風呂は大事！！羽茂温泉があるから1日が楽しみでもあります。仙台から来てお風呂はいつも羽茂温泉を使わせて頂いています。必要なのでずっとあって欲しいです！！！」(仙台市、30代女性)
- ・「地域の方々との交流がもてる。マッサージも出来てうれしい。あたたまってほっこりといやされる。(大阪府、60代女性)
- ・「夏に帰省した時に必ず行く場所だから、是非続けて欲しい。」(東京都、40代男性)
- ・「ふる里へ帰った気がする。」(栃木県、20代女性)

- ・「佐渡に遊びに来た時はいつも入りに来ます。無くさないでほしいです。」(東京都、30代男性)
- ・「ばあちゃんの町に温泉があるのはうれしい。いつも入りたい。」(東京都、20歳以下男性)
- ・「里帰りの時の家族だんらん。ぜひ続けて下さい。」(神奈川県、50代男性)
- ・「帰省のための楽しみの1つである。ゆっくり温泉に入りリフレッシュできる。」(東京都、50代女性)

② 地域拠点としての活用の拡大

既に多様な世代が集まる地域の拠点として温泉施設は利用されていると共に、金銭授受の窓口や職員の滞在、広いスペースの存在等が揃っています。

それらを有効活用するために、介護予防教室の開催場所・託児拠点としての利用、行政窓口・図書室・銀行やローン等の民間の相談窓口等の活用を検討し、運営費用へ充当することはできないでしょうか。

③ 観光客の温泉施設への誘導の強化

今後、外国人観光客が増加していくと予想される中で、温泉旅館ではないホテルや民泊の利用も増加していくと考えられます。

そうした観光客を温泉施設へ誘導するために、観光協会のHP等に加え、ツアーへの組み込み等も検討してはいかがでしょうか。

④ 市役所内での多部署による連携した検討

地域拠点・観光・移住者誘致等の多様な活用やふるさと納税の利用による温泉施設の存続を検討していくためには、現状の社会福祉課だけの検討では難しいように思います。

そのため、市役所内の既存の所管部署である社会福祉課に加え、市長を中心に行政改革課、地域振興課、総合政策課等も含めた議論をしていただくことはできないでしょうか。

■ 最後に

温泉施設は、市民の憩いの場であると共に、佐渡が今後も魅力的な地として存続していくための貴重な資源であると考えています。

また、住民をはじめ、温泉施設の存続を願う数多くの声があるということはアンケート結果の通りです。

私たちは、温泉施設の存続のために「行政のお願いするだけ」ではなく、住民自らによる「創意工夫」「継続的な努力」が必要であると理解し、今後も最大限の協力をしていきます。

ぜひ「温泉施設の廃止を含む計画」の「温泉施設の存続を前提とした、前向きで未来志向の計画」への見直しを宜しくお願い致します。